

バラツキ解消と標準化のためにIE手法を教育へ

—日本IE協会年次大会で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：新年にあたり一言どうぞ。

A：(林明夫：以下省略)新年明けましておめでとうございます。読者の皆様に支えられ、「林明夫の歩きながら考える」の連載も今年で9年をこえることができました。心から感謝申し上げます。

さて、首相直轄の教育再生会議には、安倍晋三首相が毎回1時間以上出席して初めと終わりに挨拶をなさり、下村博文・文部科学大臣は教育再生担当大臣として毎回フル参加をなさっておられると伝え聞きます。議論の推移を踏まえ、同時並行して関連法案の準備がなされ、再生会議の決定直後には関連法案が国会に上程され、審議・議決すると直ちに予算を付して実行に移されています。

このように「下村教育改革」は着実に実行されていますので、文部科学省のメール・マガジンに登録をして、教育再生会議はじめ文部科学省の教育改革の議論の推移・改革の進捗状況を正確に認識なさることをお勧めいたします。

下村大臣は安倍首相の意向を受けてここまで熱心に教育改革を実行に移してこられたのですから、我々は「下村教育改革」の内容を熟知した上で、自分たちなりに消化吸收し、「下村教育改革」を見据えた上での行動を取ろうではありませんか。

Q：ところで、林さんは日本IE協会の年次大会に参加したそうですね。なぜですか。

A：日本インダストリアル・エンジニアリング協会(略称、日本IE協会)の2014年の年次大会が、2014年10月15日・16日の2日間にわたってパシフィコ横浜の会議センターで行われました。私は、議員を務める足利商工会議所の「足利5S学校」の役員として参加を要請されました。足利市は、働く人々の自主性を尊重する「足利流5S」活動がさかんで、日本IE協会の「5S」の視察先としてIEに興味・関心がある方々の訪問を国内外から毎週のように受けております。

12月5日には、スリランカで「5S活動」を熱心に行っている企業経営者25名の方々が、開倫塾を含め3企業の「5S活動」を視察なさいます。

Q：IE手法とは何ですか。

A：IE手法とは、IE(Industrial Engineering)の分野で開発ないし発展したIEを実践するための集まりを言います。

IEについては、JIS Z8141で「経営目的を定め、それを表現するために、環境(社会環境及び自然環境)との調和を図りながら、人、物(機械、設備、原材料、補助材料及びエネルギー)、金及び情報を最適に設計し、運用し、統制する工学的な技術・技法の体系」と定義されています。

基本的なIEの対象は主として生産システムであり、活動の目的はその効率化にあります。

Q：IEは学習塾の仕事にどのような関係があるのですか。

A：IE で用いられる手法の1つに「作業研究」があります。

「作業研究」とは「作業を分析して最も適切な作業方法である『標準作業』の決定と、『標準作業』を行うときの所要時間から標準時間を求めるための一連の手法体系」を言います。

「作業研究」には2つあります。その第1は、生産の流れを調査分析して不必要な工程を廃止するなど生産工程を改善するとともに、そこで行われる作業方法を改善する。その結果を標準化して「標準作業」を研究する「方法研究」です。

第2は、工程分析、作業分析、動作分析の順序で行う「方法研究」です。平均的な熟練度の作業者が標準作業を標準速度で行ったときの所要時間から適正な標準時間を求める作業測定が、この代表。生産管理、在庫管理、物流・レイアウトなどもIEの内容です。

これがどう学習塾に関係するのか。学習塾の仕事は他のサービス産業と同じくバラツキが極めて多く発生しますので、顧客価値を持続的に創造することが極めて難しく、労働生産性が極めて低いために価格も下がらず、働く人々の福利厚生の上昇も困難な状況にあります。

少子化で塾生数がどんどん減少する中で、学習塾や予備校、私立学校の存続を図るのにIE手法ほど役に立つものはないと確信します。このIEの基本が5Sです。

働く人々の自主性を尊重した「5S活動」のメッカである栃木県足利市を創業の地として2014年11月に創業35周年を迎えた開倫塾は、IEの重要性を認識し、「開倫5S学校」を中心に少しずつですが「5S活動」を推し進めていますので、このことを強く実感しています。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことはありますか。

A：「バラツキ」や「業務の標準化」に少しでも関心をお持ちの先生方は、IEの学習を少しずつスタートさせることをお勧めします。

地元の市や町にある「商工会議所」や「商工会」、各都道府県にある「経営者協会」や「生産性本部」では、どこでも熱心にIE、特に5Sに関するセミナーを推進しています。

日本IE協会や日本生産性本部でも素晴らしいセミナーや視察会を数多く開催しています。

足利商工会議所の「足利5S学校」(申込先：0284-21-1354)では皆様の視察を積極的にお受けしています。開倫塾の「開倫5S学校」(申込先：0284-72-5945)も是非、御視察ください。

働く人々の自主性を尊重した「足利流5S」はバラツキ解消、標準化、生産性向上による経営品質向上、雇用の維持や働く人々のやる気向上だけでなく、組織の存続に直結します。経営トップや経営幹部の大切な勉強の1つとして、IEや5Sをお勧めします。

Q：最後に一言どうぞ。

A：医療の分野でも「質の向上」は大テーマです。質向上の共通言語を集大成したのが「医療の質・用語辞典」日本規格協会2005年9月8日刊です。「医療」を「教育」と読み換えれば、約300ページのすべての内容は学習塾、予備校、私立学校の「教育の質向上」に役立つと確信いたします。

以前にも紹介した、日本教育工学会編「教育工学辞典」実教出版2000年6月1日刊とともに御併読ください。

野中郁次郎・竹中弘高著「知識創造企業」東洋経済新報社1996年3月21日刊は、現代の名著と高く評価されます。未読の方は是非、御一読を。

本年もどうかよろしく願いいたします。

— 2014年11月29日林明夫記 —